

R元年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 17日

事業所名 放課後等デイサービス にじの森

	チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点・改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				
	2 職員の配置数は適切である	6			・支援度の高い子供さんに対しては、複数で配置見守りを行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5		・自分たちで環境を工夫しながら行っている ・柱の角等、危険箇所にクッション等をつけて配慮している。また、不必要な物は置いていない ・介助する子供の成長もあり、トイレが狭いと感じてしまう。必要な物は先に準備を行い時短で終了できるように心がけている。	・トイレに関しては、改修予定はなし。出来るだけ、介助される子どもさんの排泄自立に向けての支援を強化し、同室に入っている時間を短くできるようになることを目標としたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6				
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6				・毎年保護者より頂いている評価にて、指摘を受けた内容については、信頼関係が取れているからこそ頂けた意見として受け止めている。職員間での話し合いの議題とし、改善に向けて考えていきたいと思う。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		1		・H29、H30年からホームページ(社会福祉法人ひまわり会)に掲載するようになる。年1回行うが、掲載時期が遅くなってしまう為、年度内掲載をしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6				
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				・研修会参加後は、記憶が新しい間に朝礼等の時間を取り、報告も行うようにしている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				・年2回の見直し時期には、利用者一人一人の振り返りを全職員にて行い、確認し合っている。全職員で確認するからこそ、子どもさんの成長が見え、療育の必要性を明確にする事が出来ている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		1		・相談事業所からの担当者会議や、基本情報や見学時の受付表等(保護者からの聞き取りした物)を中心として状況把握に努めている。その情報を基に、実際子どもの動きに配慮している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6				・職員が集まり、同じ活動にならないよう会議を開催して立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				・1か月ごとの活動プログラムを作成しているが、職員が持ち回りで担当する事で、活動の方よりしないよう工夫もしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6				・休日のプログラムは、普段いけない場所などに行き楽しめるように企画している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				・毎回全職員で、その日利用される子どもさんの人数や送迎、担当する職員の確認まで行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			・日々、前日の療育内容や支援についての反省会を行っている	・確認は必ず行っており、終礼や朝礼にて、記録を取り残している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				・日替わりにて担当職員を決めている為、記録も担当している職員が責任をもって書くようにしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5		1		・学習・生活・運動・音楽・創作・各種体験活動を組み合わせ、子どもさんの状態も考慮した上で、支援内容を検討していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				・基本的には、児童発達支援管理責任者が参加するようになっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6				・児童発達支援管理責任者が、時間割や年間行事予定等確認を行うようにしている。日々の送迎に関しては、毎回一日が始まる前に全体で確認している為、抜けがないようにしている。万が一送迎中のトラブルが発生した場合には、送迎職員が携帯電話を所持している為、事業所に連絡を取ることで、行き違いなどが起こらないよう、情報を一か所に集め判断するようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1	2		・医ケア児の受け入れをしたことがない為わからない部分も多いが、保護者の連携を交えながら医療機関との連絡体制も整えたいと考える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6				・必要に応じて、連絡を取り情報共有をするようにしている。(保護者に必ず確認を取ってから行うようにしている)
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	1	2		・その用意はできている為、移行する際には情報提供をしたいと思う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6			・放デイ間の交流はあるが、児童クラブとの交流も検討していく必要がある ・近隣公園で、地域の子どもさんたちと触れ合う機会はあるが、少ない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5		1		・障がいのない子ども達と遊ぶ機会は設けていない為、今後の検討課題としていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6				・自立支援協議会への参加は、可能であれば担当職員以外の職員も参加していきたいと考えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1			・事業所で行っている支援を伝えているが、ペアレント・トレーニングの難しさを感じる事がある ・気持ちはあるが、自分が相手を支援できるまたは助言できているのが不安に思う
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				・
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				・電話で対応もしているが、話しが長くなるような場合には、直接来所してもらい話を伺うこともある。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4			・保護者会は作っていないが、保護者間の関わりが持てるような行事を増やしている ・父母の会はないが、親子レクリエーションの機会は増やしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6				・子どもを交えてのレクリエーション会等の開催を、事業所としては行っていく上で、保護者同士の交流の場を作りたいと考える。また、保護者間での交流の場等必要であれば、ご家族にご意見を聞きながら進めていきたいと考える。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6				・日頃から、要望という形で対応する事で、苦情にまでに至らないでいるのだと思う。
	35	個人情報に十分注意している	6				・毎月の通信に予定表も載せているが、準備物の確認をしてもらいたい為、必要な物がある日の欄には色を付け、忘れ防止につなげる工夫をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6			・夏のある地区のお祭りには参加したいが、土曜日でタイミングが合わなかった。
						・現在は、保護者を招く事しかできていない。子どもさんの状態にもよるが、今後できるのかどうかも含めて検討していきたい。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	2	・周知に関しては不十分の所がある為共有が必要である	・マニュアルの存在はあるが、全体で確認不足の為、今後時間を作り研修を行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				・毎年、虐待、権利擁護研修会への参加をしており、事業所内で周知するための研修会を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6				・毎年、虐待、権利擁護研修会への参加をしており、事業所内で周知するための研修会を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			・疑わしい子どもさんは、アレルギー検査を受けて頂いている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6				・終礼時に、一日の反省を行い、危険箇所等の振り返りも行っている。